

令和2年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和3年1月28日（木）10:00～11:30

方 法 Web会議（Zoom）

出席者 坂井学長、重原理事、柳澤理事、西井理事、岡村理事、中村理事、
内海委員、佐々木委員、利根委員、平本委員、山名委員

欠席者 小安委員、砂川委員

陪席者 山中監事、齋藤監事、市橋副学長、田代副学長、川合副学長、川又副学長、
木崎副学長、伊藤副学長、末松人文社会科学部研究科長、野中教養学部長、
禹経済学部長、薄井教育学部長、黒川理工学研究科長、石井理学部長、
水野工学部長

- 坂井学長から、小安委員及び砂川委員が本会議を欠席する旨、報告があった。
- 令和2年度第3回議事要録の確認について
令和2年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、
了承された。
- 経営協議会委員からの意見への対応状況について
柳澤理事から、前回の経営協議会における学外委員からの質問事項である「コロナ禍
における学生相談の利用状況・解決の方向性」及び「リモート授業での鬱傾向の調査」
についての回答として、学生の相談窓口利用状況に基づく分析について説明するとと
もに、学外委員より意見のあった学生支援を手厚くするための方策として、各学部の教
員から一年生への声掛け実施など、教員と学生が直接コミュニケーションを取れる場
を設けることとしている旨、報告があった。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

- 報告事項
 - 1 令和3年度予算の内示について
西井理事から、資料2に基づき、文部科学省における令和3年度国立大学関係予算
（案）及び本学への令和3年度予算内示の状況について説明があった。
 - 2 目的積立金の使用について
西井理事から、資料3に基づき、前回の経営協議会にて承認された目的積立金の使
用計画のうち、金額未定となっていた事項の金額等について説明があった。

3 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について

川又副学長から、資料4に基づき、国立大学法人評価委員会による令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

○ 審議事項

1 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について

坂井学長から、資料5に基づき、本学における国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況等について、さらには事前意見照会により提出された学外委員からの意見についての報告があり、審議の結果、文章を一部訂正した上で承認された。

☆ 全体的に厳しく判断している印象がある。例えば、現時点ではホームページでの公表に向けた作業中であるため未実施と判断している事項などについては、公表予定として実施済みと判断してもよいのではないか。

2 役員期間における退職手当の業績勘案率について

西井理事から、資料6に基づき、「埼玉大学における役員退職手当の業績勘案率の基準」により業績勘案率を算出し、退職手当を決定したい旨の説明があり、審議の結果、承認された。

3 令和3年度予算編成方針について

西井理事から、資料7に基づき、令和3年度予算編成方針について説明があり、審議の結果、承認された。

4 中期目標・中期計画に係る変更について

川又副学長から、資料8に基づき、中期目標・中期計画における組織名称の表記及教育組織の改組に伴う収容定員の変更ための修正を行う旨の説明があり、審議の結果、承認された。

○ その他

1 埼玉大学の現状について

柳澤理事から、大学入試共通テスト及び個別試験の実施状況について、木崎副学長から、本学における新型コロナウイルス感染症の感染状況及び緊急事態宣言への対応状況について説明があった。

☆ リモート授業の実施形態については、リアルタイムとオンデマンドのどちらなのか。リアルタイムでの実施の場合、教員と学生との質疑応答や学生同士の意見交換等
は行われているのか。

△ リモート授業の約20%がオンデマンド形式で、それ以外がリアルタイム形式で
実施されている。各教員の授業実施方法を全て把握している訳ではないが、Zoomで
少人数グループに分けて討論させる機能を利用している授業形態が教員にも学生に
も人気があり、リアルタイムでは学生同士で討論できる場を設けている授業が多く
あるとのこと。また、指定した時間に研究室で学生からの質問を受け付けるオフィス
アワーという制度が従来からあるが、オンライン上でも必ず実施するように要請し
ている。例えば、授業終了後にリモート授業の接続を閉じずに、教員がそのまま残っ
て学生からの質問を受け付けるなどの手法も実施されている。その他にも WebClass
というオンライン上の教育支援システムを使用しており、掲示板機能を活用して意
見交換を行うなど、リアルタイム以外でも学生同士のやりとりが促進されるよう働
きかけている。

☆ 講演や講座の最後にアンケートを取った際に、受講生同士での話し合いができた
ことが充実感に繋がったという意見を多く見てきた。学生にもディスカッションを
する場面を作ってあげて欲しい。

2 次回日程（令和3年3月18日（木））

坂井学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい
旨の連絡があった。

以上